

## 短期大学学生調査（JJCSS）の研究開発

発表者（申込者）山崎 慎一 共同発表者 堺 完  
発表者（申込者）桜美林大学 共同発表者所属 同志社大学大学院

短期大学学生調査（Japanese Junior College Student Survey, JJCSS）は、2008（平成20）年度以来、短期大学基準協会調査研究委員会が、山田礼子同志社大学教授をリーダーとする「大学生調査研究プログラム」（JCIRP）に協力して、毎年度実施している研究開発プログラムである。JCIRPの開発してきた四年制大学を対象とした学生調査には、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所（HERI）が行ってきた調査をもとにHERIの許諾を得て、日本版として開発されたもので、新入生を対象としたJFSと、高学年を対象としたJCSSとがある。JJCSSは、この内のJCSSを、学習効果測定法に主眼をおきつつ、短期大学に適合するものとして研究開発中のものである。

この調査に参加した個々の短期大学は、自校のデータと全体集計結果を付き合わせることで、精度の高い自己評価資料を取得できることから、認証評価への対応に役立てられるだけでなく、標準化された調査に参加することによって、国際的な比較を含む他機関とのベンチマークが可能となることが想定されている。さらに、マーケティングへの利用といったメリットがあり、かつ、全体結果自体は短期大学の実績を社会に示すことにもなると考えられる。また、JCIRPの短期大学調査チームメンバーによって本調査の全体集計結果を用いての学術研究が行われており、その成果の活用が期待できる。

2008年度の第1回調査では9校（2,496件）、2009年度の第2回では30校（8,850件）、2010年度の第3回では23校（8,539件）、そして2011年度の第4回では34校（9,637件）の短期大学の協力を得て実施され、研究開発の実を上げてきている。2012年度の調査は、現在実施に向けて準備中である

本調査は例年同様11月から12月に実施され、各短期大学の個別集計結果と全体集計結果の中間報告および最終報告にまとめられる。個別集計結果は参加短期大学に対して、即刻、通知され（翌年1月下旬～2月初旬）。中間報告は、参加短期大学はもとより本協会の会員校にも送られる（8月下旬～9月初旬）。また、最終報告については、参加短期大学に対してアンケートにより本調査に関する意見を求め、その結果を踏まえて作成され、参加短期大学や会員校はもちろん、教育関係者にも広く公表される。また、全体データは、JCIRPメンバーによって学術研究に活用され、各参加短期大学は、その結果と自校のデータとの比較によってより深い分析が行われる。

本パネル発表では、この調査の意義、実績、課題について報告し、検討する。